

## 第14回 陽林会 研修

(文責 岩水龍峰)

坂東三十三ヶ所観音巡拝 第4回(満願の旅) 平成30年5月15日~17日

平成30年5月15日(火)前回同様林陽寺駐車場を7時15分に出発。今回は中央高速道路を使用して栃木県に向かうため名古屋組は岐阜駅にて乗車。岐阜を8時に出発東海北陸、環状道、中央高速、岡谷で一端高速をでて新和田峠を越えて立科へ途中コンビニ弁当を道の駅「女神の里たてしな」でいただき、再び中部横断自動車



関東一の閻魔大王

道佐久南から上信越、関越、北関東、東北道、再び北関東と走り真岡(もか)にて下道(15時30分)へ。最初の巡拝寺院益子市の第20番西明寺へと進めた。岐阜駅を出たのが朝8時、西明寺到着は午後4時10分であった。8時間強の行程であった。後藤ドライバーさんご苦労様でした。600キロを超えないように苦心されました。洞泉寺さん曰く四国より遠い。今回は、栃木県の日輪寺は標高が高く雪の心配があったため5月開催となりました。 第4回のコースは、次のようであった。

- 15日 各地出発 20番 西明寺 (泊) 鈴木屋旅館 大子町
- 16日 21番 日輪寺-22番 左竹寺-23番 観世音寺- 24番 楽法寺- 25番 大御堂-26番 清滝寺 (泊) 筑波山ホテル
- 17日 28番 龍王院 東名経由 各地帰宅(名古屋上社、林陽寺)

『末期がんの“看取(みと)り医師”死までの450日』NHK 2017年9月18日(月)放送

始まりは2年前の12月。末期のすい臓がんで余命わずかと宣告された医師がいると聞き、取材に向かった。田中雅博さん(当時69)。医師として、僧侶として終末期の患者に穏やかな死を迎えさせてきた「看取りのスペシャリスト」だ。これまで千人以上を看取った田中さんの「究極の理想の死」を記録しようと始めた撮影。しかし、次々と想定外の出来事が…。看取りのスペシャリストが見せてくれたありのままの最期、450日の記録。

この番組を確か見た記憶がある「すごいお医者さんでお坊さんか」と思っていたが、今回の旅で、新川末子さんから西明寺のご住職だと聞かされた。そういえば途中で診療所が…。田中雅博(1946年-2017年3月21日)は、日本の医師、僧侶。栃木県芳賀郡益子町の西明寺で生まれる。父親の勧めで医師を目指し、東京慈恵会医科大学を卒業。国立がんセンターで研究所室長、病院内科医として勤務。大正大学に進学し、仏教を7年間学び、西明寺を継いだ。住職を務めながら、1990年、境内に入院病床を備えた(緩和ケアもおこなう)普門院診療所や介護施設を建てた。2014年10月、末期の膵臓癌が発見された。その後肝臓に転移。30年間「病院にもスピリチュアル・ケアワーカーが必要」と訴え続けた。2017年3月21日午前7時20分に死去した。70歳没。その後、寺の住職は同じく医師である妻の貞雅が引き継いだ。(ネットより)

著書[編集]

『般若心経の秘密』電気情報社 2015年、『軽やかに余命を生きる』角川書店 2016年等

<p>第20番 独鈷山 西明寺 (益子観音)</p>	<p>真言宗豊山派</p>	<p>栃木県益子町益子</p>
 <p data-bbox="373 622 536 656">重文の仁王門</p>	<p data-bbox="790 282 1361 649">天平年間（729年～749年）行基の開山、紀有麻呂の開基によって創建されたと伝えられる。その後、兵火などによりたびたび焼失したが、宇都宮氏・益子氏の援助によりそのつど再建された。江戸時代には江戸幕府から朱印状が与えられた。本尊は十一面観音であり、境内に閻魔堂があり、関東一の木造閻魔大王坐像（笑い閻魔）が祀られている。</p>	
<p>第21番 八溝山 日輪寺</p>	<p>天台宗</p>	<p>茨城県久慈郡大子町</p>
	<p data-bbox="790 719 1361 1133">白鳳年間（7世紀後半）に修験道の開祖である役小角が創建。その後、大同2（807）年に弘法大師空海みずから刻んだ十一面観世音の霊像を本尊として再興され、永延3（989）年には観音霊場のひとつとなりました。江戸時代には光圀公も本寺維持に意を注いで援助。寛永20（1643）年の火災によって焼失し、その後に再建。明治13（1880）年には山火事に遭い、本尊を残して再び焼失。その後再建された。</p>	
<p>第22番 妙福山 佐竹寺 (北向観音)</p>	<p>真言宗豊山派</p>	<p>茨城県日立太田市天神林町</p>
	<p data-bbox="790 1200 1361 1570">鎌倉時代から江戸時代にかけて常陸国を支配した佐竹氏代々の祈願所。寛和元（985）年に花山天皇の勅願を受けて元密上人が創建。本尊の十一面観音像は、安産や厄除けなどに御利益のある。重厚感あふれる佇まいの本堂は茅葺き寄棟造りで、正面中央には唐破風が設けられており、正面の火頭窓や柱、組物など、あらゆる箇所にも桃山時代の建築物の先駆とも言える遺構が残された。</p>	
<p>第23 佐白山 正福寺 (観世音寺)</p>	<p>普門宗 (真言系単立)</p>	<p>茨城県笠間市笠間</p>
	<p data-bbox="790 1637 1361 2007">「佐白山観世音寺」(正福寺)は、佐白山麓にある。白雉2年(651年)に狩人の粒浦氏によって建立されました。本尊は十一面千住観世音菩薩。宇都宮氏がこの地を攻め、城を築いて笠間氏を名乗り、観音堂を再築。明治初年の神仏分離に伴う廃仏毀釈により焼失。昭和5年(1930年)現在地に仮の本堂が建てられ、平成24年(2012年)に正福寺に改称。現在の仮本堂は昭和5年に建立されました。</p>	

<p>第24番 雨引山 楽法寺 (雨引観音)</p>	<p>真言宗豊山派</p>	<p>茨城県桜川市本木</p>
 <p>江戸末期の多宝塔</p>	<p>寺伝によれば、587年(用明天皇2年)、中国(梁)出身の法輪独守居士によって創建されたという。山号寺名は早魃時の雨乞いに霊験があったとして嵯峨天皇から勅命により賜ったとされる。1154年(建長6年)宗尊親王により再興され、さらに建武年間(1334 - 1338年)、足利尊氏により再興されたという。本尊は観音菩薩。安産子育 祈願のみ寺として昭和の御代と共に庶民信仰の中に深く定着した寺である。</p>	
<p>第25番 筑波山 大御堂 (おおみどう)</p>	<p>真言宗豊山派</p>	<p>茨城県つくば市筑波</p>
 <p>鐘楼堂</p>	<p>延暦年間(782年 - 806年)徳一の開山により創建され、その後空海が入山し知足院中禅寺と号した。筑波山神社と神仏習合により信仰され、江戸時代には多くの寺領を有した。明治初年の神仏分離により破却されたが、1930年(昭和5年)再興された。現在、本堂は建て替え中である。東京都文京区大塚にある真言宗豊山派大本山護国寺の別院でもある。本尊千手観音菩薩。</p>	
<p>第26番 南明山 清瀧寺</p>	<p>真言宗豊山派</p>	<p>茨城県土浦市小野</p>
 <p>修復された仁王門</p>	<p>寺伝によれば、607年(推古天皇15年)に聖徳太子作の聖観音を竜ヶ峰に安置したのが始まりと伝えられる。大同年間(806年 - 810年)に徳一上人によって山の中腹に移され、後に現在地に観音堂が建てられた。江戸時代には江戸幕府から朱印状を得ていたが、1969年(昭和44年)、不審火により本堂が焼失。天保年間(1830年 - 1844年)に建てられた山門が残されている。</p>	
<p>第28番 滑河山 龍正院 (滑河観音)</p>	<p>天台宗</p>	<p>千葉県成田市滑川</p>
 <p>しめ縄を張った仁王門</p>	<p>承和5年(838年)、滑河城主の小田将治が発願し、慈覚大師円仁が開山したと伝えられる。本尊の体内に納められている1寸2分の観音像は、小田将治が出会った老僧が小田川よりすくい上げたものとされている。本尊は十一面観世音菩薩。仁王門は、文亀年間(1501年 - 1504年)に再建されたもの(国の重要文化財)。</p>	

写真で見る第4回の旅      どこでの写真でしょうか、思い出してみましょう。

